

②【決算認定等議案】

予算決算委員会 産業建設分科会座長報告

令和7年9月26日 予算決算委員会 後期全体会

○議案第106号

「令和6年度飯田市一般会計歳入歳出決算認定について」のうち  
産業建設分科会の分担となりました部分と、  
議案第96号及び議案第97号、議案第110号及び議案第111号並びに  
議案第116号から議案第118号までの審査の経過報告

○議案第106号「令和6年度飯田市一般会計歳入歳出決算認定について」

○2款 総務費 1項 総務管理費 9目 企画費 及び  
17目 リニア推進事業費

「交通体系整備事業（事務事業No.32）」に関し、

【質疑】「予算額と決算額の乖離は。」

【答弁】「国から事業者への補助金や事業者の運賃収入が見込みより  
多くなったことにより、市の負担額が減額になった。」

○「リニア駅周辺整備事業（事務事業No.45）」に関し、

【質疑】はじめに「活動指標の内、プロジェクト開催数が計画値15  
に対する実績値の31の内訳は。」

【答弁】「公民協働ブランドクリエイトプロジェクトが16回、トータル  
デザインプロジェクトが9回、次世代インフラプロジェクト及びプロジェクト  
連携会議が6回の合計31回。」

【質疑】「開催回数の多い公民協働ブランドクリエイトプロジェクトは、  
活発な協議がなされていると思うが、協議内容を市民へ向けて可視化する  
考えはあるか。」

【答弁】「今後、事業者と具体的な協議をスタートさせることから、協議の進捗に合わせてお知らせするよう努める。」

○4款 衛生費 1項 保健衛生費 5目 環境保全費

「下水道事業（事務事業No.328）」に関し、

【質疑】「活動指標の合併処理浄化槽設置補助交付戸数が計画値を大きく上回っているが、補助金は対象者に不足なく交付されているか。」

【答弁】「財源を確保するとともに、補正予算を含め対応している」との答弁がありました。

○5款 労働費 1項 労働諸費

「雇用対策事業（事務事業No.152）」に関し、

【質疑】「活動指標の個別相談件数の計画値と実績値の乖離の理由は。」

【答弁】「計画値は1年間の対応可能な件数144件と設定している。相談は予約制としており、実績としては31件の相談があった。」

○「地域循環型農業推進事業（事務事業No.161）」に関し、

【質疑】「市田柿のB S資材の国庫補助事業の補助申請が不採択となった理由は。」

【答弁】「B S資材の活用に関する国の補助事業の採択を目指したが、B S資材が肥料は対象外という理由から不採択となった。今年度、国においてB S資材の表示等に係るガイドラインが策定された。これまで国の方針が曖昧であったが、本腰を入れてB S資材を広めていくこととなったため、法令等に注目し、事業を進めたい。」

○6款 農林水産業費 1項 農業費 4目 農業振興費

「農業経営強化事業（事務事業No.164）」に関し、

【質疑】「活動指標の“補助金（市）を活用し施設整備した経営体”が計画値の25件に対して、実績が37件となっているが、予算は充分であったか。」

【答弁】「補助の申請は、3月と8月の2回、募集した。多くの申請があり、予算の範囲内で交付したため、申請額の全額ではなく、3月申請分が申請額の約65%を、8月分が約50%を補助した。」

○2項 林業費 2目 林業振興費

「森林資源活用推進事業（事務事業No.175）」に関し、

【質疑】「リニア駅の大屋根等の大型公共施設の需要に対する供給体制は。」

【答弁】「地元財産区、森林組合などの森林事業体等や設計チーム等と調整しており、飯田市産材を十分確保できる状況となっている。」

○「森林づくり推進事業（事務事業No.176）」に関し、

【質疑】「活動指標の搬出材の体積の実績値が計画値を大きく下回っている理由は。」

【答弁】「活動指標の搬出する木材の体積の実績値は、未利用材を林地残材としていた木材の搬出した体積となっている。搬出した木材全体の搬出体積ではない。乖離の理由は、林業事業体が間伐から主伐再造林に切り替えたため、この際に不測の日数を要したため。」

○「森林病虫害・鳥獣被害対策事業（事務事業No.178）」に関し、

【質疑】「クマ対策についての取組は」との質疑があり、

【答弁】「クマに対しては、県からの頭数調整の指導等に伴い捕獲することになるが、現在指導等はないことから冬季の狩猟期間の捕獲が基本となる。最近の出没目撃情報に関しては、注意喚起のほか、見通しをよくするため草木の狩り払いなどによる緩衝帯の整備を進めている。」

○7款 商工費 1項 商工費 4目 観光費

天龍峡まちづくり支援事業（事務事業No.191）」に関し、

【質疑】「6年度の取組の中に国の受託事業として“特別な体験の提供等によるインバウンド消費の拡大・質向上推進事業”があるが、その数値目標と実績は。」

【答弁】「インバウンド向けの商品造成を目的とし、農家民泊と農業体験、伝統文化体験、郷土文化や水引体験等に触れるツアーを計画した。300人の集客を目指し、事業を実施したが、準備期間及びPRが不足したことから8人に留まった。一方、天龍峡の若い世代の皆さんが中心に精力的に取り組んだことから、今後の取組につなげてまいりたい。」

○8款 土木費 2項 道路橋梁費

「社会基盤維持管理事業（事務事業No.169）」に関し、

【質疑】「老朽化に伴う道路・橋梁等の早期発見及び補修について、どのように点検するか。」

【答弁】「定期的に職員が点検することに加え、地区要望からも把握している」との答弁がありました。

【質疑】「効率性の観点から、目視による点検以外に時代に即した新たな方法についての検討はあるか。」

【答弁】「国から新技術の活用について通達があることから、新たな技術を活用してまいりたい。」

○5項 住宅費

「旧市営住宅敷地等管理事業（事務事業No.228）」に関し、

【質疑】「予算額と決算額の乖離が大きい理由は。」

【答弁】「計画した2戸のうち、実績は1戸のため執行残となった。未成立の案件については、引き続き交渉に当たっている。」

○11款 災害復旧費 2項 公共土木施設災害復旧費

「災害復旧事業（事務事業No.299）」に関し、

【質疑】「令和５年度発生 of 災害復旧事業が進まない理由は。」

【答弁】「応札いただける事業者が少ないことが要因の一つとなっている。」

○「林道災害復旧事業（事務事業No.300）」に関し、

【質疑】「予算額と決算額の乖離の原因は。」

【答弁】「災害発生時に迅速に対応できるよう最低限の予算を計上しているが、令和６年度は災害発生が少なかった。」

○議案第116号「令和６年度飯田市水道事業決算認定について」の  
審査

【質疑】「令和５年の料金の改定から３年目となるが、令和６年度決算の積立等の状況から見た、現経営戦略における今後の事業収支の見込みは。」

【答弁】「現経営戦略は、24年間の必要経費を特定財源及び料金収入で賄うことを前提としており、積立金はそのために必要な補填財源となる。令和６年度の収支決算の状況からは今後に必要な財源が確保できた。」

【質疑】「今後の料金改定の見込みは。」

【答弁】「令和６年度の料金収入は、現経営戦略の見込みよりも若干少なくなっている。経営戦略は３年毎に見直すこととなっているため、現在、見直しに向けた検証を進めており、料金改定についても合わせて検討していく。」

○議案第110号

令和６年度飯田市地方卸売市場事業特別会計歳入歳出決算認定について、

○議案第111号

令和６年度飯田市駐車場事業特別会計歳入歳出決算認定につい

て、

○議案第96号

令和6年度飯田市水道事業剰余金の処分について、

○議案第117号

令和6年度飯田市下水道事業決算認定について、

○議案第97号

令和6年度飯田市下水道事業剰余金の処分について、

○議案第118号

令和6年度飯田市各財産区会計歳入歳出決算認定について、

○以上6件は、特に申し上げることなし。